ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.6（3号町道橋-右岸）	調査位置				北　緯	36 ° 25 ’ 02.0000 ”
発注機関	栃木県宇都宮土木事務所 河川砂防部			調査期間	2008-01-22 ～ 2008-01-24	東　経	139 ° 53 ’ 57.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	57.74 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 10.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下具	
総掘進長	15.43 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
0	57.24	0.50	0.50		盛土(砕石)(BS)	暗灰	中ぐらい	中位	0.4mまで砕石，0.4m以深は砂礫		
1	56.64	0.60	1.10		礫混じりシルト(M-G)	暗褐			φ5～30mmの円礫を点在する 下部は軟らかい		
	56.14	0.50	1.60		砂質シルト(MS)	暗褐		軟らかい	含水・粘性ともに中位である 腐植物を混入している		
2					砂礫(GS)	暗褐～褐～暗褐	密な		φ5～40mmの円・亜円礫主体 φ100～200mm(コア長L=30～70mm)の玉石が点在 礫間は粒径不均一な砂で充填されている		01/22 2.90
3											
4									6.0m付近まで孔壁崩壊し易い 6.8m付近硬質な礫を多く混じる		
5									7.8m以深は逸水激しい局所的にルーズに堆積		
6											
7	49.94	6.20	7.80								
8	49.14	0.80	8.60		礫混じり細砂(FS-G)	暗褐	中ぐらい		粒径不均一な細砂で所どころ粘土分が多い φ5～10mmの円礫を多く混入するややルーズな堆積状態		
9					粘土混じり砂礫(GS-C)	褐～暗褐	非常に密な		φ5～40mmの円・亜円礫主体 φ100～200mm(コア長L=30～70mm)の玉石が点在 礫間は粒径不均一な砂で充填されている 7.4～7.8m間は礫混じり砂をしばしば挟む 全体に固結の程度が高く非常に締まっている 13.0m付近から粘土が多く混じる 礫種は安山岩，流紋岩など火成岩が多い		
10											
11											
12											
13											
14											
15	42.31	6.83	15.43								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0|10	10|20	20|30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1		2	2
1.45	15	15		30	
2.15	18	14	18	50	50
2.45				30	
3.15	23	25	2	50	>50
3.36			1	21	
4.15	27	23	9	50	>50
4.34				19	
5.15	36	14	5	50	>50
5.30				15	
6.15	31	19	6	50	>50
6.31				16	
7.15	10	14	16	40	40
7.45				30	
8.15	6	7	11	24	24
8.45				30	
9.15	10	13	25	48	48
9.45				30	
10.15	18	17	15	50	>50
10.44			9	29	
11.15	18	15	17	50	>50
11.43			8	28	
12.15	30	13	7	50	>50
12.40			5	25	
13.15	21	21	8	50	>50
13.39			4	24	
14.15	11	30	9	50	>50
14.38			3	23	
15.15	4	23	23	50	>50
15.43			8	28	

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日
01/22
01/23
01/24